



# 山形大学 農学部

2021 学部案内





## 総合科学としての農学

山形大学農学部長 村山 秀樹



山形大学農学部は、総合科学としての農学を重視した1学科制をとり、総合的な判断力をもったバランス感覚のある人材育成を目指しています。1年生は山形市にある小白川キャンパスで主に基盤教育と農学の基礎専門を勉強します。1年間で、360° 広がる農学の中から、自分が勉強したい分野を見つけます。2年生からは、アグリサイエンス、バイオサイエンス、エコサイエンスの3つのコースに分かれて、本格的な専門教育が始まります。3年生からは、それぞれのコースの基幹プログラムの他に、国際感覚を身につける国際展開プログラムと、地域のリーダーを目指す地域創生プログラムを選ぶことができます。4年生になると、広範な研究分野で、それぞれチャレンジングで、オリジナルな研究を展開し、卒業論文にまとめます。

山形大学農学部のウリの1つは、活発な国際交流です。昨年度は50人の学生を海外に派遣しました。実に4人に1人は海外へ行っています。一方受け入れの方も、短期間の留学生を含めると、昨年度は実に100名を超す留学生が、農学部で勉強しました。国際感覚を身につけるには、最高の環境です。



鶴岡キャンパス



高坂農場



上名川演習林

# 附属やまがたフィールド科学センター

## エコ農業部門（高坂農場）、流域保全部門（上名川演習林）および社会教育部門の3部門で構成されています。



### エコ農業部門（高坂農場）

本部門は稲作を中心に畜産・果樹・野菜の生産部門がそれぞれ高収量・高品質の生産を目指し、一貫して土地生産型農業の教育研究を行ってきました。しかし、我々が生きている環境の悪化と農業をとりまく環境の変化により、多化学肥料・多農薬散布に依存した高生産性追求の農業を見直し、環境に優しい農業技術の確立が求められています。そのような状況の中、本部門は水稲栽培を基盤とし肉牛生産を有機的に結びつけた物質循環・環境保全型農業を確立し、環境に優しい持続可能な農業を目指した教育・研究を行っています。



### 流域保全部門（上名川演習林）

上名川演習林は農学部キャンパスより南に約26km、朝日山地の急峻地帯に位置しています。森林面積753haのうち約80%をブナ主体の天然生落葉広葉樹林が占めており、年平均最大積雪が約3mにもなる豪雪地帯です。このような演習林の自然的特性を生かし、森林生態系と積雪環境の相互作用や水循環及び物質循環に関する教育研究を行っており、地域の伝統的な栽培方法である『焼畑』による赤カブ栽培の実践場としても活用しています。また、地域に開かれた大学演習林として、市民を対象に公開行事を開催しています。



### 社会教育部門

エコ農業部門（高坂農場）、流域保全部門（上名川演習林）と連携し、体験学習、生涯学習およびリカレント教育を行うとともに、開発途上国の農業技術者の研修受け入れ、国際連携研究などの国際貢献を担当します。また、地域文化に込められた人と自然が共生していく知恵を、これからの環境保全型社会の構築に活用する方策を研究します。さらに、広く社会に開かれた大学として地域社会との連携を強化するためにコーディネート機能を重視するとともに、農林生産様式の変化に伴う地域情報の収集、管理発信を行います。

## 国際交流活動

### 山形大学農学部では国際交流を活発に行っています。

2016年度から、国際化推進期間としており、「食と農業と環境」をキーワードにした学生の海外派遣・受入れを実施しています。4年間で、9カ国へ144名を派遣、8カ国から184名を受入れました。海外協定校の学生と共に学び、活動することを通じて、国際理解を深め、グローバル社会で活躍できる人材を育成しています。2019年度からは、将来、国際的に活躍したい学生を対象とする教育プログラムを設置し、さらなるグローバル人材育成に取り組んでいます。

◆学部間学術交流協定大学・機関  
12カ国26大学

◆留学生数（2020年4月1日現在）  
正規生として12カ国から36名の他、17名の短期留学生を受入れています。

◆令和元年度 学部実施の各種プログラムによる実績  
派遣／33名

（カンボジア13名、イタリア・ドイツ10名、タイ10名）

受入／72名

（インドネシア27名、ドイツ18名、タイ12名、ペルー10名、ベトナム5名）

### 令和元年度に実施した海外研修



イタリア・ドイツ（9月8日～9月25日）



カンボジア（9月20日～9月28日）



タイ（9月21日～9月28日）

# 山形大学農学部に入學してから卒業まで



## 1 学科におかれる3つのコース

基礎科目の履修をもとに、自分の興味や適性に合わせて、1年次2月にコースを選択し、2年次からコース配属となります。

### アグリサイエンスコース

安全な農畜産物の持続的生産・管理を担える人材を育成。

環境を保全しながら、安全な農畜産物の生産を維持していくために、自然科学と社会科学の両面から、フィールド科学重視の学習を通じて、人や家畜、環境に優しい安全な農畜産物を安定的に生産するための専門的な知識や実践的な技術、農業経営やコミュニティビジネスの発展方策や地域活性化手法、食の安全を担保するフードシステムや循環型社会システム構築に関する理論や方策なども幅広く学びます。

#### 【主な授業科目】

作物学、園芸学の基礎、畜産学、植物保護学、食料生産技術学、食料生産経営学、農業政策と地域振興、フィールド科学、フィールド科学実験実習Ⅰ・Ⅱ、食料生産基礎実験実習Ⅰ、食料生産科学専門実験実習Ⅰなどがあります。

### バイオサイエンスコース

生命科学に関わる現場で活躍できる人材を育成。

身の回りに存在する植物や高等動物、微生物などの多様な生物、及び食品や土壌などを対象とした教育・研究を行っています。生物がもつ生理機能の遺伝子やタンパク質、代謝物レベルでの解明と高度化利用、薬用植物や微生物、食品などに含まれる有用物質の探索、作物の進化や品種の多様性・類縁関係を究明するために、有機化学、生化学、分子生物学、動物栄養生理学、植物栄養生理学、微生物学、食品科学などについて基礎から応用まで広範囲の領域を学びます。

#### 【主な授業科目】

バイオサイエンスコース実験Ⅰ・Ⅱ、基礎有機化学、基礎生化学、分子生物学、動物栄養生理学、基礎植物栄養生理学、微生物学、食品科学、在来植物資源学、農産物生理学、食品衛生学、遺伝子タンパク質工学、土壌生物資源学、動物発生工学、植物育種学などがあります。

### エコサイエンスコース

持続可能な自然環境の保全・利用に取り組む人材を育成。

農林業の基盤となる自然環境や生態系のメカニズム、機能を理解し、それらが生み出す恵みを楽しみながら、将来にわたり持続可能な形で保全、利用、管理するための理論や技術を学びます。庄内地方の恵まれた自然的・地理的条件を最大限に活かしながら、山岳から奥山、里山、河川、都市、農村、海岸までの多様な自然と社会を対象に、フィールドワークを重視した教育を受けられます。

#### 【主な授業科目】

農村計画学、森林資源利用学、応用力学、水理学、水文学、測量学、森林生態管理学、林業経済学、森林影響学、流域保全論、里山管理学、森林動物学、自然環境解析論、森林調査基礎実習、水環境実験実習などがあります。

## 3つの履修プログラム

各コースにおける課題を解決するための理論や技術を学んだ後に、2年次2月には

- ・専門分野のより高度な知識の修得を目指す【**基幹プログラム**】
- ・学んだ理論や技術を活かしてグローバルに活躍したい学生を対象とする【**国際展開プログラム**】
- ・地域の活性化に貢献したい学生を対象とする【**地域創生プログラム**】

の中から、自分の将来を見据えて、履修プログラムを1つ選択します。

### 基幹プログラム

サイエンスを追求しながら、アグリ、バイオ、エコの各コースについて、それぞれの課題を解決するためのより高度な理論や技術を学びます。

#### 【主な授業科目】

アグリサイエンスコース：  
食料生産科学専門実験実習Ⅱ、食料生産研究準備演習、食料生産研究演習Ⅰ・Ⅱ

#### バイオサイエンスコース：

バイオサイエンス研究演習Ⅰ・Ⅱ、バイオサイエンス英語演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、バイオサイエンスコース実験Ⅲ

#### エコサイエンスコース：

エコサイエンス研究演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

#### 【取得可能な資格】

食品衛生管理者及び食品衛生監視員、食の6次産業化プロデューサー（レベル3）、測量士補（※申請中）、樹木医補、自然再生士補（※申請中）、GIS学術士 ※2018年度までの入学者はすでに取得が可能な資格であり、現在、2019年度からの新カリキュラムでの申請中です。

### 国際展開プログラム

各コースの基礎・専門教育に加え、外国人留学生・研究者との交流を含めた演習、海外実習などを通じて、語学力の向上を目指すとともに、異文化理解、多文化共生社会への対応等、グローバル化の進む社会に必要な国際的感覚を身につけます。

#### 【主な授業科目】

国際展開プログラム概論Ⅰ・Ⅱ、国際理解Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、グローバル食農環境論、国際展開プログラム演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、国際農業演習、英語コミュニケーション演習Ⅰ・Ⅱ、Intensive Scientific Communication Course などがあります。

### 地域創生プログラム

食や農を核とした地域のニーズに応えるため、地域の活性化とその好循環の維持を実現する地域社会をマネジメントする方法を学び、地域社会の課題解決を目指すような卒業研究に取り組みます。

#### 【主な授業科目】

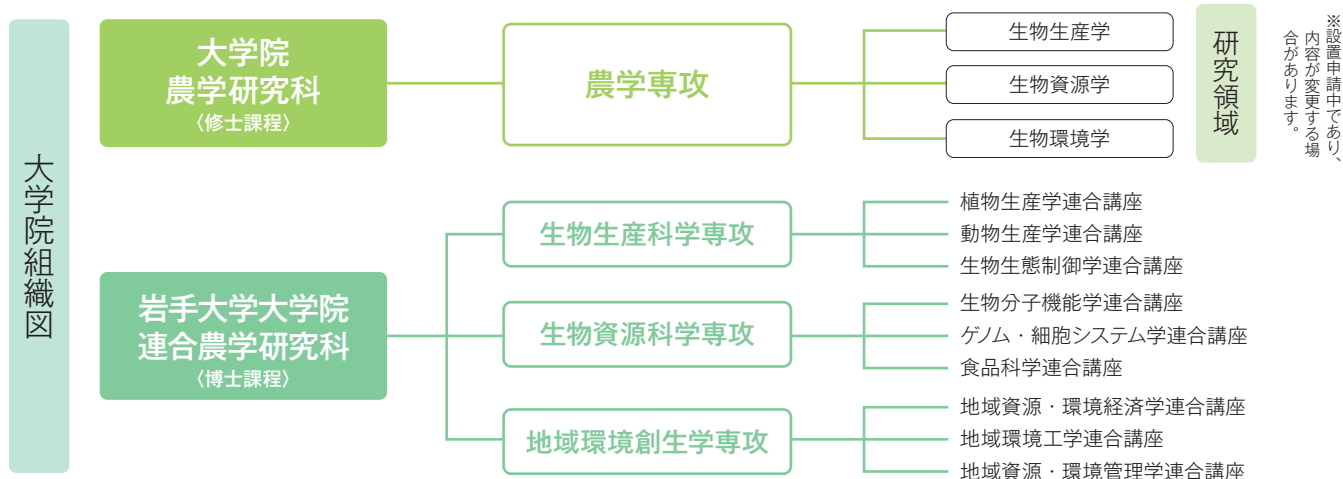
地域創生論Ⅱ、地域創生プログラム実習、食と農のビジネス論（社会人とともに学びます）、さらに学科やコースの共通科目の中で地方創生に関わる科目を選択履修します。

# 大学院への進学

## 山形大学農学部では大学院の教育・研究に力を入れており、大学院進学を推奨しています。

大学院農学研究科(修士課程)には現在3つの専攻を設けていますが、令和3年4月から、農学専攻1専攻にすることを文部科学省へ設置申請中です。農学は基礎から応用まで広範な領域を扱う総合科学であることから、1専攻に統合することで、専門分野別の垣根を取り払い、細分化された学問を統合できる人材の育成に取り組めます。また、この修士課程では、令和元年度から新たに、ドイツのハノーヴァー大学とのダブル・ディグリープログラムを始めました。1年間のドイツ留学を含むこのプログラムを修了した学生は、両方の大学から修士の学位を取得できます。現在、両大学から合計3名の学生がこのプログラムの下で学んでいます。

博士課程については、山形大学、岩手大学、弘前大学の3大学で大学院連合農学研究科を組織し、各構成大学の特色を生かした教育研究を行っており、その中で、本学教員の指導のもとで研究を進めることができます。なお、本学の修士課程からの進学者（過去3年間に修士課程を修了した方も含む）は入学金が免除されます。



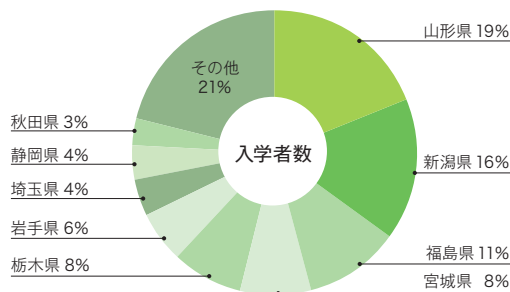
## 入学試験データ・就職&進学データ

### 令和2年度 入学試験実施状況 (2020年4月1日現在)

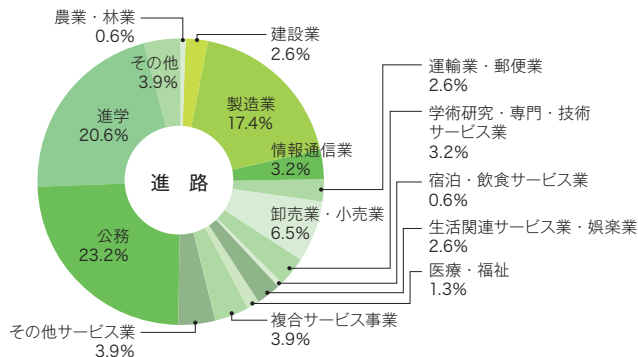
※2021年度(令和3年度)入試から、入試区分の名称を変更します。  
推薦入試I→学校推薦型選抜I  
AO入試II→総合型選抜II

学部	学科	選抜名称	募集人員	志願者数		受験者数		合格者数		入学者数		志願倍率
				男	女	男	女	男	女	男	女	
農学部	食料生命環境学科	前期日程	95	91	65	89	64	73	53	65	44	1.6
		後期日程	25	42	36	42	36	15	15	9	7	3.1
		AO入試II	5	10	5	6	4	3	2	3	2	3.0
		推薦入試I	40	40	23	40	23	22	18	22	18	1.6

### 2020年度における 地域別入学者割合



### 就職・進学データ



### 就職

JA全農/いなば食品(株)/カゴメ(株)/(株)富士薬品/(株)日比谷花壇/山形県農業共済組合/ジョンソン・エンド・ジョンソン(株)/東日本旅客鉄道(株)/農林水産省/林野庁/関東地方整備局/全国の都道府県庁・市区町村の役所

### 進学

山形大学大学院 / 東京農工大学大学院 / 千葉大学大学院 / 筑波大学大学院 / 名古屋大学大学院 / 東北大学大学院 / 九州大学大学院

### 就職率の推移 (就職決定者/就職希望者)

平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	4年連続
100%	100%	100%	100%	100%

※就職・進学データは令和元年度卒業生のもので、  
※就職・進学先は、令和元年度の実績(抜粋)です。

# 山形大学農学部の特徴

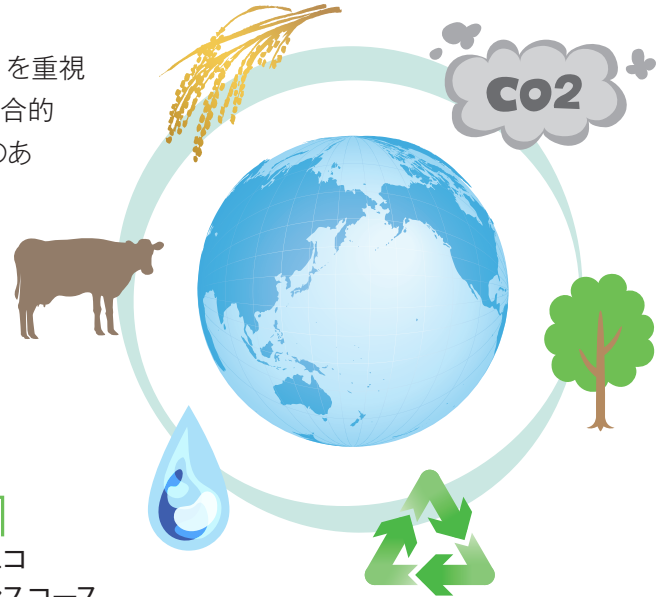
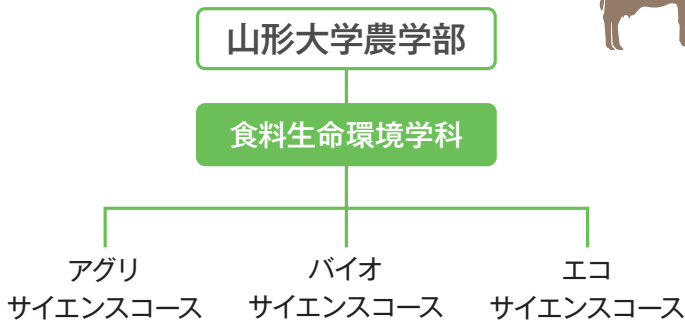
## 1

### 総合科学としての「農学」を重視した教育体制

人類が地球規模での危機的な食料、環境、エネルギー問題に直面している今、このような複雑な課題を解決するには、応用力と総合力が必要となります。

山形大学農学部では、総合科学としての「農学」を重視した1学科制により、食料、生命、環境科学を総合的に学修し、総合的な判断力を有したバランス感覚のある人材育成を目指しています。

#### ■ 組織図



## 2

### 2019年4月より1学科3コース3プログラム制で総合力をさらに重視した教育へ

- ◆1学科制のメリットを活かし、「国際化」と「地域創生」を充実させたコース横断的なプログラムを設けました。
- ◆どのコースでも専門性を深く追究するプログラムまたは総合力を身につけるプログラムで学ぶことが可能です。
- ◆6コースを3コースに再編し、各コースで学べる幅が広がりました。

#### 2019年3月までの1学科6コース

食料生命環境学科
安全農産物生産学コース
食農環境マネジメント学コース
食品・応用生命科学コース
植物機能開発学コース
森林科学コース
水土環境科学コース

#### 2019年4月からの1学科3コース

食料生命環境学科
アグリサイエンスコース
バイオサイエンスコース
エコサイエンスコース

## 3

### 豊かな文化と自然環境、身近なフィールド

山形大学農学部は日本有数の穀倉地帯であるとともに、豊かな自然に恵まれた庄内平野に位置しており、農学、生命科学、フィールドサイエンスなどを学ぶ場として最適の条件を備えています。

- ◆山形大学農学部のある鶴岡市は、「食文化創造都市」日本初（2014年）ユネスコ認定「森林文化都市」（群馬県沼田市、埼玉県飯能市、山形県鶴岡市）
- ◆山形大学農学部附属やまがたフィールド科学センター  
24haの農場と753haの演習林



## 学生寮

名称	啓明寮
対象	農学部2年次以上 鶴岡キャンパス履修者
定員	男子36名・女子35名
寄宿料（月額）	18,000円
所在地	鶴岡市若葉町12-4
キャンパスまでの距離	鶴岡キャンパスまで500m
建築年	2013年改修
主な設備	ユニットバス、トイレ、ミニキッチン（IH）、 冷暖房エアコン
共同利用の設備等	ラウンジ、面会室、洗濯室（コインランドリー）、 倉庫、トイレ、自動販売機コーナー
1ヶ月あたりの概算経費	約25,000円 寄宿料：18,000円 光熱水費：約7,000円



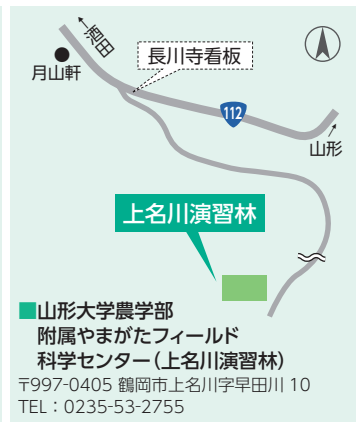
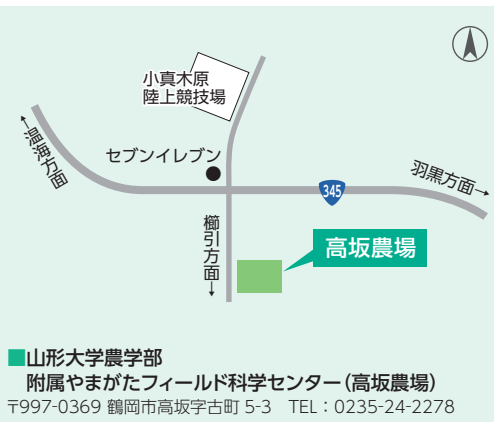
※寄宿料（月額）に食費や光熱水費等は含まれておりません。  
※学生寮はすべて個室です。

## 鶴岡キャンパス



## アクセス

東京から	東京駅	JR新幹線	新潟駅	特急いなほ	鶴岡駅	徒歩	山形大学農学部 鶴岡キャンパス
			2時間	2時間		20分	
羽田空港	羽田空港	全日空1日4便	庄内空港	リムジンバス	鶴岡エスモールバスターミナル	徒歩	
			1時間	25分		10分	
仙台から	仙台駅前 (広瀬通40番)	庄内交通・宮城交通・山交バス・羽後交通			鶴岡エスモールバスターミナル	徒歩	
		共同運行高速バス	2時間45分			10分	
山形から	山形駅前 (①番のりば)	庄内交通・山交バス			鶴岡エスモールバスターミナル	徒歩	
		共同運行高速バス	1時間50分			10分	



# 山形大学 農学部

〒997-8555 山形県鶴岡市若葉町1-23  
TEL/0235-28-2911 FAX/0235-28-2836  
E-mail: nosenken@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

<https://www.tr.yamagata-u.ac.jp/>

Web TOPへ



●この山形大学農学部案内でご不明な点や、より詳しく知りたい方は、左記までお問い合わせください。

